

# 和歌山西組「キッズサンガ」開催



餅つき・念珠作りを体験



発行 和歌山教区基幹運動推進委員会  
 編集 教区報編集委員会  
 和歌山市鷺森1番地  
 鷺森別院内  
 電話 和歌山(073)422-4677  
 FAX 和歌山(073)428-2450  
 発行人 杉本 正信

去る4月11日、和歌山市中松江、松専寺において、第3回和歌山西組キッズサンガ(子ども集い)が開催され、組内35人の子どもたちが集合した。

第2回までは、夏期に開催されていたが、今回は、花まつりを兼ねて春期の開催となった。

組内寺院住職、寺族婦人会、門徒総代会、仏教婦人会、門徒推進員ら64人が協力した。

9時の受付開始とともに、境内は、あつという間に子どもたちの声であふれかえった。

9時30分より開会、オリエンテーションと記念撮影を終えて、お餅つきを体験。最近では、お餅つきをする家庭も少なくなり、はじめてお餅つきを体験する子どもが多かった。

門徒総代さんや婦人会の方の介添えの中、「よいしょ、よいしょ」の掛け声のもと、子ども



たちは、杵きねの重さに負けまいと一生懸命にお餅をついた。出来立てのお餅を誕生仏にお供えをした後、改訂された食事の言葉を唱和し、美味しくいただいた。

続いて「讃仏偈」をお勤め。花まつり誕生仏に二人一組になり甘茶をかけてお祝いをした後、甘茶をいただき、仏典物語「お釈迦さま」のビデオを見たあと、昼食のうどんをいただいた。

休憩の後、本堂にて、体を使った遊びや言葉のゲームで盛りあがった。

続いて腕輪念珠作りを体験。子どもたちは珠の順番を間違えたり、落したりしながらもスタッフの指導のもと、全員が無事に作り終えることができた。

和歌山西組では子どもたちに毎回、腕輪念珠を作ってもらい記念品の一つとしている。

最後にビンゴゲームで盛りあがり、お菓子の景品と記念写真を受けとりみんな笑顔で会場を後にした。



# 鷺森テレホン

## 紙上法話

岩崎法明

(和歌山教区 本願寺派布教使)

ナマンダブツ：阿弥陀さまは、私を逃してなるものかとお声のお姿をおとりになつてこの身に充満いたします。頭の上から足のつま先はおろか、思いのうち、愚痴、ため息、涙こぼれる端々にまで余すところなく満ち満ちてくださいました。

御開山様、『入出二門偈』に曰く

この人はすなはち凡数の撰にあらず、(註釈版550頁)

お念仏申すこの身は、煩惱充満の凡夫ではありませんが、ただの凡夫ではございません。阿弥陀さまのご本願が至り届

いてくださった尊い値打ちのある凡夫でございます。

ここからは私の作り話です。ある家の年末の風景です。母は遠く離れた都会で忙しく働く娘が心配で電話をいれま

す。

「どう元気でやっている？ いつ故郷に帰ってくるの？ お父さんも気にしてたわよ！ 電話しろ！ 電話しろってう

るさいのよ！」

娘、「お母さん、今年は帰れそうにないわ！ 仕事が忙しくて…お父さんにも言つていてね！」

そう聞いたお母さん、裏の物置から10キロ入りミカン箱を一つ、お正月に忙しく働く娘を思い荷物作りいたします。「ミカンでも送つてあげよう」と思ってお母さん。しかしミカン一色の荷物は作りません。ミカンは半分、お米に

# 「わが身に満ちる

# 阿弥陀様の願い」

おもち、総本家駿河屋のまんじゅう、日持ちするちりめんじゃこに天乙のかまぼこ、金山寺味噌も少々、小さな隙間には去年つけた梅干しとらっきよを小さな空きビンに詰め、はちきれんばかりの荷物を作り送ります。田舎な荷物が娘に届く。「お母さんたら」と娘が思います。お母さ

んのありったけがそこに詰まっています。

ナマンダブツ、阿弥陀さまが私に詰まっています。私を案ずる阿弥陀さまが一緒です。

ナマンダブツ：とご一緒です。

## 鷺森テレホン 法話

24時間いつでもどこからでも

3分間法話が聞けます。

073-422-0243

おにしさん

# 海南組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 厳修

## 本堂に舞う二千枚の華葩

海南組 組長 吉村 眞典



去る4月18日、海南市冷水、了賢寺におきまして、海南組お待ち受け法要を厳修いたしました。当日は、天候にも恵まれて、組内割当200人に対して250人もの参拝をいただき満堂になりました。また境内には、特産品の出店も出て、賑やかなものとなりました。



開会式では、組長挨拶の折に、橘総長からの祝辞を披露し、さらに杉本正信教務所長からの祝電を披露いたしました。法要は、組内の各寺院門徒代表、教化団体代表、組内の住職をはじめ、僧籍のある坊守を含む衆徒の方々の縁儀によりはじまり、次に組内寺院の仏教婦人会代表による、献灯献花がおこなわれました。お勤めは、「正信念仏偈作法」で、導師は、会所寺院の松本教智住職がつとめられました。勤行中の「念仏」の「阿」字散華の時に、内陣出勤の法中の散華に合わせて、



参詣のご門徒様方も、その場で立ちあがり、一緒に「散華」を行い本堂に約2000枚の華葩が舞い壮観でした。記念法話は、「親鸞聖人が願われたこと」と題し、組内西光寺住職蓮下義昭師が聖人のお心を熱く語られました。

法要後の法楽として、ジャズロックイン姜晄艶さんが「親鸞さまと私」と題し、「二胡」の演奏をしてくださいました。姜さんは、子どもの頃、京劇を学びながら医学の道に進まれ、そして音楽へと、日本にいられて親鸞聖人の教えにふれ、生きる喜び



を得たと語りながら、「二胡」の音色で仏教讃歌を伝えたいと、そして、医学と音楽と仏教の融和を目指したいと語りながらの演奏でした。後半には、「赤とんぼ」「ふるさと」などの童謡を演奏された時は、堂内に歌声が響きました。演奏終了後、堂内に拍手が沸き起りアンコールとなりました。

閉会式は、中岡俊樹副組長のお礼の挨拶に続き、恩徳讃を全員で歌い、法要、式典は終了しました。帰る準備をするご門徒の方々からは、「今日は良かったね。感動したわね」との声が、あちらこちらから聞こえてまいりました。今日のご勝縁を明年の親鸞聖人750回大遠忌法要へと、繋げていきたいものです。

## 2010(平成22)年度

## 和歌山教区基幹運動計画

### 1. 目 標

御同朋の社会をめざして

—つれもていこら 御同朋—

### 2. スローガン

「ともに いのち かがやく 世界へ」

—おかげさまで ありがとう—

### 3. 基本方針

「基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)は、教団や社会の現状から目をそむけず、み教えに問い聞きながら、同朋教団としてのあるべき姿・御同朋の社会の実現をめざす運動である」ことを体して、教区内に基幹運動の推進をより一層展開し、全員聞法・全員伝道を実現すべく、門信徒・僧侶の一人ひとりが伝道教化活動に取り組もう。

### 4. 研修テーマ

「いのち きびしく あたたかく」

—いのちの尊厳を、御同朋の視点から、  
そのきびしさとあたたかさをともに学んでいく—

### 5. 活動方針

親鸞聖人750回大遠忌法要に向けて、「親鸞聖人750回大遠忌について」の消息のお心を体した取り組みを進めよう。

①阿弥陀さま(お仏壇)を中心とした生活を通して、私たち一人ひとりが念仏申す営みを大切に、念仏のこころを次代に家庭に社会に伝えていきたいと思います。

②御同朋・御同行と願われた親鸞聖人の生き方に学び、人権・いのちの尊厳を守る取り組みを進めましょう。(同朋運動)

③全員聞法・全員伝道のもと、組やお寺での話し合い法座や文書伝道を実施するなど、創意工夫をこらして、寺院活動の充実を図り、みんなで支える開かれたお寺づくりをしていきたいと思います。(門信徒会運動)

### 6. 重点項目

①「親鸞聖人750回大遠忌法要」に向けて、教学の研鑽に努め、法要儀式・法式に関する意義を深める。

②組基幹運動の推進のため、体制の充実を図っていく。

③「念仏者」として、差別と戦争のない社会をめざす同朋運動の推進に取り組む。

④次代を担う「人」の育成に向けて、「組活動(基幹運動)推進者の養成」や「キッズサンガ」などに積極的に取り組む。

⑤「組連研」をはじめとする門信徒会運動や各種教化団体活動の問題点を共有し、より一層の活性化を図る。

新年度も組基幹運動推進委員会や各専門部会では次の通りの具体的な活動を展開いたします。

#### 組基幹運動推進委員会(組基推委) 活動

基幹運動推進の中核としての組基推委の位置づけを明確化し、組の現狀に即応した基幹運動の充実と活性化をはかっていきます。

また、組基幹運動計画書を作成することで、組における基幹運動推進の目標や取り組み、問題点をあきらかにし、組内の僧侶・門信徒一人ひとりが携わっていける体制を整えていきます。

また、門信徒とともに組・寺院の現状を把握し、生き生きとした活動ができるように連研や門信徒研修会などの充実に取り組みんでいます。

さらに例年通り、「門信徒会運動研修協議会」や「第V期同朋運動推進僧侶研修(組僧研)」の開催、そして、次代を担う青少年の教化育成の一環として「全寺院『子どもつどいーキッズサンガ』」への取り組みを呼びかけ、実施されるよう働きかけます。

企画常任委員会

組基推委と常に連携を取っている、各組での「第V期同朋運動推進僧侶・寺院研修会」の開催に向けた事前研修会を開催いたします。

さらに基幹運動推進者(組活動推進者)の養成に向けた連続的な研修会を実施します。

また、「全員聞法・全員伝道」に向け、例年実施しているブロック別門信徒総研修会や、7月9日の「平和を希う念仏者の集い」を通して、戦争・人権などの現代社会状況対しての問題意識を深め、いのちの尊厳を護る取り組みを進めていきます。

教学伝道部会(第一専門部会)

この部会では、親鸞聖人の生涯に学び、御同朋の視点に立った教学の研鑽と伝道に向けた取り組みを行います。また、布教団と連携をはかり、住職・僧侶・寺院の資質を高めるとともに、教学研修に取り組みます。

さらに、「浄土真宗の葬儀・仏壇・納骨ガイドー阿弥陀さまと私」の冊子を活用した啓発活動や、昨年設置した特別法務員による「勤式振興会」が中心となり教区の勤式・法式の普及に務めます。

同朋部会(第二専門部会)

この部会では、御同朋の社会をめざし、部落差別などの差別の実態から、私と教団の体質を問い、差別の現実を直視し、「信心の社会性」を明らかにするとともに同朋教団の確立をめざす取り組みを行います。

各組での「第V期同朋運動推進僧侶・寺院研修会」実施に向けての方策、教区基幹運動推進者養成研修会の開催に取り組みます。また、差別の解放運動の連携をはかるため同和教育振興会や近畿同朋

運動推進協議会(略称・近同推)と協力して同朋運動を強く推し進めます。

さらに、「同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会(略称・和歌山県同宗連)」や和歌山人権研究所など差別・人権問題関連機関への参画に積極的に取り組みます。

寺院振興部会(第三専門部会)

この部会では、次の三つの項目を中心に取り組みます。

- ①寺院機能振興を図る上から責任役員・門徒総代の研修や活動の充実。
- ②門徒推進員らと連携をはかり、門徒推進員養成連続研修会(連研)の推進。
- ③広報・文書伝道活動。

今年度は特に、連研の活性化に向け、各組の実情把握や各組連研担当者との協議会などを通して、教区における連研のあり方や体制づくりを重点的に取り組みます。そして、「教区報編集委員会」では、教区の情報発信や文書伝道活動の一翼を担うよう教区報『さぎのもり』の紙面づくりの充実に取り組みます。

組織教化部会(第4専門部会)

この部会では、門信徒、僧侶の一人ひとりが共に手を携え、課題を共有し、念仏者として基幹運動の充実を図り、さらに将来を担う人の育成に取り組みます。

各教化団体や関連団体の状況把握を行い、将来における教区教化組織体制の確立に向けた研究を行います。

また寺院青年会連盟との連携により寺院子弟研修会を開催します。

さらに仏教壮年会や門信徒会の開設の呼びかけ、各団体との連携と協力のもと社推協・ピハール活動に積極的に関わってまいります。

キッズサンガをすすめる会

「キッズサンガ」は、阿弥陀さまとのお縁づくりです。年々、子どもを取りまく環境は大きく変動してきます。だからこそ、大人以上に子どもが常に仏縁にふれられる営みが大切になっていきます。

お寺が心ふれあう、子どもの居場所となるような取り組みをはじめていきましょう。

# 日高組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 厳修

## 131名の稚児が小さな手を合わせお念仏

日高組 組長 鈴木悟峰

4月18日(日)由良町内の蓮專寺と光專寺の二ヶ寺を会場に日高組お待ち受け法要が厳修された。

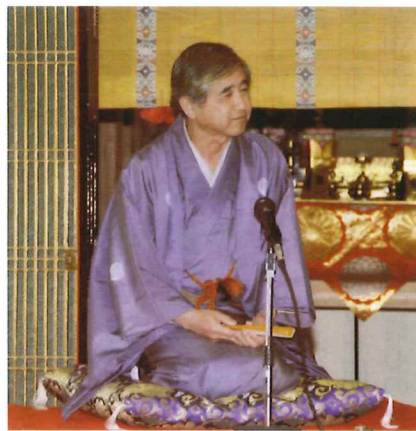
今年は異常気象と言われ、例年より雨天が多く、また寒波で何かと問題になっている昨今、当日は晴天にめぐまれ、さわやかな春日和のもと、午前10時、由良町里地区横浜の光專寺から同地区内南の蓮專寺に向かつて、先導僧侶・奏楽員・伝供衆に導かれ131人の稚児行列が出発した。



到着後の11時から蓮專寺にて、「正信念仏偈作法」によるお勤めが行われた。

午後からは会場を光專寺に移し、落語家の森乃福朗さんが説教

落語「他力本願」や古典落語が披露され、参列した門信徒はいつもと違った説法を笑いの内に聞き入った。



僧侶・門信徒一丸となって法要が勤まる

法要は、2011(平成23)年4月から始まる本山での親鸞聖人750回大遠忌法要の厳修に向け策定された宗祖讃仰作法(音楽法要)を基本とした組独自の差定で行った。出勤法中・鏡鉞衆(壮年会会員)は、習礼の集合日時調整に苦慮しながら取り組んだ。おかげで、厳肅な内に参拝者と共にお念仏の声が大きく響きわたった。

法要の終わりに際し、本願寺橋総長からのご祝辞を組長が披露し、続いて内芝善明宗会議員からご祝辞をいただきました。



思いがけない稚児の参集(念仏の声が子や孫に)

高齢化・少子化が進む組にあって、131人の稚児の参集は予想外であった。おじいちゃん・おばあちゃんや孫のためにと、お寺にお参りし、手を合わせご縁に遇わせようとした結果でしょうか。あるおばあさんは、「自分の娘

も、私の母の薦めで稚児行列に参加させて嬉しかったことを思い出して、遠くの孫を呼び寄せた」と話していました。思えば遠く離れた場所に住む孫も、是非とも仏縁に遇わせたいと里帰りして参加してくれたことでした。



この度の組における「お待ち受け法要」の厳修には僧侶、各教化団体の役員を始め、多くの方々に快くお世話をいただいた。そうしたことから親鸞聖人の遺徳を偲ぶ想いがひとつになった法要であったと受け止めています。来年、お迎えする「親鸞聖人750回大遠忌法要」への意識向上が図られた法要であったと嬉しく思うことあります。

# 紀南組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 厳修

## 体育館に響く500人のお念仏

紀南組 組長 藤 俊 乗

今回のお待ち受け法要を修行するに当たって、組内若手僧侶が中心となつて約1年前から取り組みがはじめられました。法要の日程から始まって、法要の規模やテーマの選定、当日の運営、組内各寺への案内等、幾度となく集まり検討を重ねて案をつくりました。そして、昨年12月3日、組の教化団体(総代会、婦人会、壮年会、寺族婦人会)の役員を中心とした実行委員会を立ち上げてさらに検討をした結果、修行要領が出きあ



りました。特に、会場の選定については現地まで足を運び、冬の冷たい体育館の中をふるえながら、当日のことを頭の中で想像しているいろいろな角度から論議をしました。最終的には本年3月9日に、会場に選定された白浜町立総合体育館の会議室で実行委員会を開き、組内の総意で修行することに決定しました。

紀南組は地理的に広範囲で、組全体で取り組みを進めることはなかなかできないこともあり、この度のお待ち受け法要はまたとないご縁となりました。その取り組みの成果は、当日のバス10台による500名という参詣者数と会場に響き渡るお念仏の声に象徴されました。真宗宗歌の大斉唱と仏教婦人会会員による晴れやかな献華の列、総代会役員による挨拶や総長祝辞の代読、仏教婦人会教区委員の総裁さまの祝辞の披露と組代表の役員の紹介などで開会行事が進められました。休憩の後、荘重な雅楽のなか、組内各寺僧侶20名の縁儀によってご法要がはじめられました。お正信偈のおつとめは会場一杯に広がり、その一句一句がそれぞれの参拝者の胸のうちに浸み入りました。まさに「ご開山さまありがたう」のテーマのごとく、ご報謝の声明でした。

昼食後のアトラクションには、地元白浜・金徳寺の仏婦による踊りが披露され、和やかな雰囲気でも盛り上がりました。続いての記念法話は、徳永一道勧学和上が「ものみな金色に輝く親鸞聖人が残されたもの」と題され、休憩をはさみながら、他



力の信心を具体的な例によってお話くださいました。午後3時には、「つれもてまいら大遠忌」平成23年ご修行のご開山の遠忌法要での再会を約束し、恩徳讃を唱和して散会しました。

私たちの先人が紀南のこの地に、お念仏のお法を灯してくださいました。それぞれの地域で多くの人々が、ご開山親鸞聖人の他力のご法義を生活の拠り所とし、お念仏を申しながら生活を営んできました。そのお念仏を私たちが受け継ぎ、そして、子や孫の世代に伝えていこうとするものです。このご法要が、その大きな機縁になるご縁でした。

# 加茂組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要 厳修

## 僧侶と門徒が力を合わせ手作りの法要

加茂組 組長 寺本 泰 宣



去る5月1日「親鸞聖人750回大遠忌加茂組お待ち受け法要」が、組内教徳寺を主会場に勤修されました。さわやかな5月晴れのもと、午前中はお稚児行列、午後からは帰敬式・法要・コーラス仏教讃歌・記念布教と盛りだくさんの内容でした。



約300人の行列が、楽人さん先頭に、塩津コミュニティセンターから教徳寺本堂まで続きました。約1キロの道のり、最後80段ほどの石段が続きますが、終始和やかな笑顔で登っていきます。本堂では神妙な顔でお参りをし、記念撮影。最近、子どもの声が少なくなつた在所ですが、この日ばかりは一昔前に戻つたようなにぎわいで、沿道では大人たちの笑顔が絶えませんでした。午後からは帰敬式。荘厳な雰囲気の中、老若男女47人の方がおかみそりを受けら

最後に組内徳心寺住職の、中田周敬鎮西別院輪番からご法話をいただき全日程を終了しました。



れました。皆さん満足そうな顔で退席されたのが印象的でした。そしていよいよ法要。組内12人の法中方とともに「正信偈」をお勤めし、海南組に倣つて参拝者全員で散華をしました。堂内にお華葩が舞い、お念仏が溢れる中、お勤めが終了しました。そして仏教讃歌。加茂組仏教婦人会のメンバーで結成されている「コール・カーモ」の優しい歌声が心を満たしています。

約1年前、企画立案の段階からご門徒の皆さんとともに準備を進めてきました。当日は、約70人を越えるスタッフが各々の持ち場につき、一生懸命お世話をいただきました。私たちの目指した「手作りの法要」が形を成し、そして無事に終了しました。スタッフの皆さんには、安堵と満足、そして慶びの笑顔が満ちていたように感じられました。

後日、あちらこちらで「すばらしい法要でした」「一生忘れません」「お疲れさん」・・・と、多くの方々からお声をかけていただきました。皆さん、本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございます。





「子ども作品展」開催について

和歌山教区少年連盟では、第14回作品展を左記の通り開催します。多くのみなさまにご出展いただきませうようご励励ください。

記

一、募集期間

9月1日～10月末日

二、展示期間

11月24日～12月末日

三、表彰式

11月28日

四、テーマ

書道の部 毛筆

小学校1・2年生 「きく」

小学校3・4年生 「生命」

小学校5年生から中学生は 「自由課題」

書道の部 硬筆

幼稚園児

「みんな なかよく やさしく」

小学校1・2年生

「こころの こえを きく」

絵画の部 「自由課題」

工作の部 「自由課題」

五、備考 詳細は、和歌山教区教務所までお問い合わせください。

平和の集い

今回で17回目となる「平和を希う念仏者の集い」が7月9日に鷺森別院・本堂において開催される。

正午より受付。本堂内では法要がはじまるまでの間、焼香台が用意される。

午後1時30分、全戦没者追悼法要が勤まる。引き続き、寺族婦人の「かりようびんが鷺森」による仏教讃歌。その後、記念講演が行われる。

今回の記念講演の講師は、映画監督でドキュメンタリー作家の森達也さん。

現在、沖縄の米軍普天間基地移転問題で浮上している「アジア地域での米軍海兵隊の抑止力」や「テロとの戦い」「国際貢献」などメディアが発信する情報を聞くと「やむを得ない」「仕方がない」という風潮になりがちだが、実際それでいいのだろうか？

今回の講師、森さんはマスコミで唯一、オウム真理教の内側からの取材を許され、信者の視点を通して一連の事件を描いたドキュメンタリー映画『A』『A2(続編)』を監督した。また、親鸞聖人のみ教えにも関心を寄せ、現代社会で進む「善」か「悪」かと分ける考え方やそれをおる報道のあり方に警鐘をならして

こられた。

今回の集いでは、森さんの取材活動などからの戦争の実態を伺うなかで、平和について考えいく。

はじめての本願寺

今回で3回目となる「はじめての本願寺」が9月26日(土)に開催される。これは本願寺に参拝経験のない仏婦会員や入会希望者を対象に、浄土真宗や仏教婦人会に関わりをもつ機縁となる入門講座的なもので、彼岸会の法要参拝を行い、仏事のいろはや正信偈のおとめの練習などを行う。参加費はひとり2000円(昼食込み)。

なお、別途500円でお香について学ぶ香り体験ができる。参加募集の詳細については教務所まで。

各教化団体で総会・研修会開催 門徒総代会新役員が決まる

鷺森別院の二尊会が5月13日から16日にかけて勤修された。法要参拝に併せ、寺婦連盟、仏婦連盟、門徒総代会、仏壯連盟がそれぞれ総会と研修会を開催した。

各団体とも総会では予算決算の報告が行われた。今回、役員改選とな

全国門徒総代会お持ち受け大会

つた門徒総代会では新役員が選出され、会長には和歌山組西法寺門徒の児玉順彦さんが再任。副会長には伊那組教楽寺門徒の大西利夫さんと有田南組真楽寺門徒の籠谷伸一郎さんが就任した。

研修会では、13・14日が滋賀教区の野瀬善隆師、15・16日は中央基幹運動相談員の宇野哲哉師が講師をつとめ、宗門の基幹運動について研鑽を深めた。

明年に迫った親鸞聖人750回大遠忌にむけて、去る5月12日にお待ち受け大会を本願寺御影堂において開催した。全国から門徒総代1600人が集り、和歌山教区からも95人が参加した。

式典では、まずご門主よりお言葉を受頂戴し、全国門徒総代会会長の中西正一さんが挨拶。その後、各連区の代表者により大遠忌へ向けての活発な意見発表が行われた。満井秀城教学伝道研究所長から記念法話があった。

その後、会場をウエスティン都ホテルに移し、1600人の参加者が一同に会し、ご門主を囲みレセプションが行われた。

教区だより

2010年6月

- 5日 有田北組お待ち受け法要
勤式講習会(鷺森別院)
8日 大遠忌法要委員会
9日 同宗連講演会
12日 和歌山西組お待ち受け法要
14日 第3ブロック少年連盟指導者研修会(和歌山/~15日)
15日 門徒推進員連絡協議会
16日 仏婦別院清掃奉仕
19日 伊那組お待ち受け法要
勤式講習会(日高別院)
29日 全少年教化アドバイザー協議会(本山/~30日)
寺婦研修旅行(山陰/~30日)

- 12日 青年布教使代表者会議(奈良)
17日 勤式講習会(日高別院)
21日 児童念仏奉仕団(本山/~22日)
26日 同朋・僧侶のための事前研修会
28日 近同推総会(本山)

8月

- 6日 全国真宗青年の集い(兵庫/~7日)
12日 教務所休暇(~14日)

9月

- 4日 勤式講習会(鷺森別院)
8日 第9回布教団連続法座
11日 第1ブロック門信徒総研修会(和歌山東組担当・鷺森別院)
第2ブロック門信徒総研修会(有田北組担当・きびドーム)
第3ブロック門信徒総研修会(紀南組担当・日高別院)
12日 仏婦別院清掃奉仕
15日 有田南組お待ち受け法要
勤式講習会(日高別院)
18日 有田南組お待ち受け法要
勤式講習会(日高別院)
26日 仏婦はじめての本願寺(本山)
29日 第3連区布教使研修会(奈良/30日)

7月

- 3日 勤式講習会(鷺森別院)
4日 有賀組お待ち受け法要
仏婦幹部研修旅行(新潟/~6日)
5日 第8回布教団連続法座
9日 平和を希う念仏者の集い
12日 第3連区布教団担当者会議

別院だより

鷺森別院

【別院子ども会】

毎月第2土曜 午前10時~12時(8月・3月は未定)
開催日 6月12日、7月10日、9月11日、10月9日

【常例法座】

- 毎月15・16日 午後1時30分より
6月15日 花岡静人師(奈良教区)
16日 岩崎法明師(和歌山教区)
7月15日 流智道師(大分教区)
16日 島和夫師(和歌山教区)
8月16日 飯島憲彬師(京都教区)
9月15日 佐藤唯英師(大分教区)
16日 岩清水昌子師(和歌山教区)

【総永代経】

6月13日 午後1時30分より 三明浄信(山陰教区)

【盆会】

8月15日 午後1時30分より 飯島憲彬師(京都教区)

【秋季彼岸会】

9月22日~24日 午後1時30分より 田中諦康師(滋賀教区)

日高別院

【永代経】

6月20日 午後1時30分より 花岡静人師(奈良教区)

【夏安居】

8月2日・3日 午前10時より
午後1時30分より
内藤 知康和上(本願寺派勤学)
※日高別院夏安居については、参加費必要。
詳しいお問い合わせは、日高別院夏安居事務局まで。
電話(0738)22-0518

【秋季彼岸会】

6月20日 午後1時30分より 花岡静人師(奈良教区)

ご生前のご活躍ご尽力に感謝申しあげ、謹んで敬申の意を表します。

伊藤孝文 和歌山組 瑞林寺
住職 平成22年4月28日
村山昌代 和歌山東組 浄明寺
前坊守 平成22年5月3日

逝去

山本龍法 和歌山北組 浄永寺
荻野龍裕 海南組 浄国寺
山本行延 伊那組 蓮乗寺
中田三恵 伊那組 教善寺
菅原 健 有田北組 教蓮寺
岩橋真隆 紀南組 金徳寺

教師

妻木 茂 海南組 弘誓寺
谷口 溪山 伊那組 浄願寺

得度

本年度より、鷺森別院の子ども会を再開する運びとなりました。つきましては、お寺やご家庭で不用になった絵本、おもちゃをご寄付いただきましたたく存じます。もしございましたら、鷺森別院までご一報ください。

「本願寺鷺森別院子ども会」からのお願